

報告

i-CREAtE! 2013 & SENDEX2013

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 社会リハビリテーション学科 松原 加代子

1. はじめに

2013年8月29日(木)～31日(土)まで、韓国・京畿道にあるKintex (Korea International Exhibition Center) で i-CREAtE! 2013 (7th international Convention on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology) と SENDEX2013 (Senior & People with disabilities Expo 2013) が同時開催された。

i-CREAtE! 2013 は、リハビリテーション工学と支援技術に関する国際会議で、2007年にシンガポールで開催されたのを皮切りに、その後、タイ等アジアの国々でホストが務められ、開催されてきた。

一方、SENDEX2013 は、韓国保健福祉部などが主催で開催される総合福祉産業展である。

今回、筆者は共同研究の研究成果発表を目的に i-CREAtE! 2013 に参加するとともに、同時に開催された SENDEX2013 を見学してきたので、この内容を報告する。

2. i-CREAtE! 2013

1. で前述のとおり i-CREAtE! 2013 は、リハビリテーション工学と支援技術に関する国際会議である。

筆者は、共同研究の Second Author として口頭発表の機会を頂き参加した。これまで欧米等で開催される国際会議に参加し、口頭発表等したことはあったが、アジアでの国際会議は初めてだったため、口頭発表への緊張と会議への期待を胸に参加した。

会期中、自分の発表セッションも含め多くのセッションに参加したが、今までの欧米の国際会議に比べると参加聴講人数は少なかった。しかし、それは

演者にとっては、セッションに参加した聴講者のほとんどと濃厚な質疑をする可能性もあり、欧米の会議ではあまり見られない光景に出会うこともあった。また、Gala Dinner 等の会議後コミュニケーションの場で、日頃情報を得ることが難しい国の研究者等と出会い、新たな繋がりが出来ることは大変有益だった。

またこの会議では、協会元理事長 相良二郎教授が「Rehabilitation Engineering and Assistive Technology in Hyper Aged Japanese society」という演題で招待講演をおこなわれ、協会や日本のリハビリテーション工学と支援技術の背景や現状等を講演された(図1)。



図1 i-CREAtE! 2013 招待講演

2.1 Asia Alliance Forum

会期中2日目に「Asia Alliance Forum」というフォーラムが開催された。これは、RESJA(日本リハビリテーション工学協会)、RESCOR(韓国リハビリテーション工学協会)、TREATS(台湾リハビリテーション工学会)、NECTEC(タイ国立電子コンピューター技術センター)、START Centre(シンガポール支援リハビリテーション技術センター)の代表者が、今後のアジアのリハビリテーション工学と支援技術に関わ

る各国の連携や各国の現状について意見を述べあうフォーラムだった(図2)。RESJAからは、招待講演と同じく協会元理事長 相良二郎教授が登壇された。



図2 Asia Alliance Forum

フォーラムを聴講した感想は、今後も引き続きアジアでの連携を深め、RESJAの活動や、協会員の活動、研究、取り組みなどを連携する中で発信していくべきだと感じた。

リハ工学カンファレンスでは、毎年英語セッションが開かれているが、ぜひ、今回のフォーラムに参加された各国の協会に参加いただき、日本で各国の取り組みや研究を発表いただくとともに、協会員も日本の情報を発信していくことが必要だと思う。

2.2 Students Design Challenge

i-CREATE! 2013では、「Students Design Challenge」という、学生のコンペディションが開催されていた。これは高齢者や障がい者の生活の質を向上させるための創造的で革新的な解決策を学生に検討させ提案させるものである。これには、2つのカテゴリーがあり、学生はDesignとTechnologyからカテゴリーを選択して、各自の提案を投稿していた。

学生は3つの審査を受け、最終受賞者が決定されていた。まず、提案の投稿後、1つ目に査読者による審査、その中から選ばれた学生は、2つ目に、i-CREATE! 2013におけるA1サイズでのポスターの審査、最後ファイナリストは口頭発表が実施された。提出された提案は、ガイドラインに基づき審査が実施され、最終的には優勝を含めた4つの賞が対象学生に授与された。

本年度の優勝者はタイの学生チームであったが、どのチームの取り組みもおもしろく、日頃学生と相対する職業柄、興味深く内容を見させてもらった。今回は日本からの参加学生はいなかったようだが、ぜひ、今後は日本からも参加する学生が出て来てほしいと思う。

3. SENDEX2013

SENDEX2013は、韓国保健福祉部などが主催、韓国保健産業振興院が主幹し、「100歳時代・老後準備と障害者福祉を」をスローガンに開催された福祉産業とヘルスケアに関する総合福祉産業展¹⁾である。

この展示会は、韓国の急激な高齢化時代への対応と福祉用具需要の増大に対して、高齢化産業と福祉工学産業の活性化を目的¹⁾としている。

我が国の内閣府調査「第7回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」結果によると、日韓の高齢化速度は、日本が高齢化率7%から14%に上昇するのに24年間かかったのに対し、韓国は予想ではあるが18年間しかかからないとの結果が出ている。同じく日本が高齢化率14%から20%に上昇するのに12年間かかったのに対し、韓国は予想ではあるが8年間しかかからないとの結果が出ている²⁾。以上より、韓国は類を見ない急激な高齢化のため、国家としての対応が急務であることがわかる。今回の展示会のスローガンもこのような背景からだと推察できる。

実際のSENDEX2013展示の内容であるが、図3が示すような展示種別となっていた。この図は、筆者

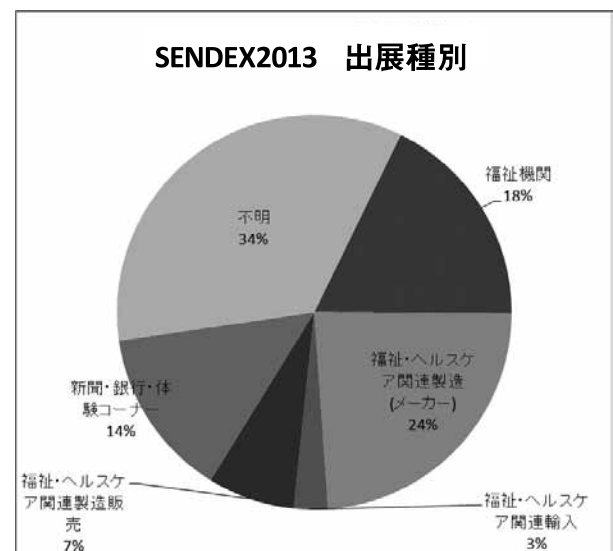


図3 SENDEX2013 出展種別

が、SENDEX2013 で配布されたパンフレット¹⁾をもとに、展示種別によって分類、グラフ化したものである。パンフレットに記載の出展数は、252 であった。グラフで「不明」と書いてあった出展の多くは、福祉関係施設の「シニアジョブフェア」での出展ブースであった。インスタント証明写真を撮れるブースもあり、その場で就職面談もおこなわれている様子が見受けられた。

筆者は、韓国の介護保険制度（老人長期療養保健制度）が施行された2008年にSENDEXを訪れているが、2008年の展示品目は、この保険制度を背景に日本の介護保険対象福祉用品品目に関わる製品が多く展示されていた記憶がある。しかし、今回のSENDEX2013では、当時展示されていた介護保険対象福祉用品品目もちろん展示はされているが、その他にも福祉ロボット、ICT (Information and Communication Technology) を活用した製品、そして、欧米からの輸入福祉用具も当時より多く見られるようになった。

また、来場者にも変化が感じられた。2008年は、来場者に業界関係者が多いように感じたが、今回はi-CREATE! 2013の「Students Design Challenge」の展示がSENDEX2013内に設けられたせいか、学生らしき若者も多く見かけた。そして、高齢者を含んだ婦人会、障害者団体等の当事者の団体来場も見受けられた(図4)。



図4 SENDEX2013 入口

今回の見学で前回の見学とも比較し、韓国の福祉産業に関わる変化を見ることができた。前述した急速な高齢化率からも、隣国としても、今後も興味深

く状況を把握したいと思う。

4. おわりに

来年のi-CREATE! 2014 (8th international Convention on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology) は、2014年8月6日(水)～8日(金)に、タイ・バンコク³⁾にて開催される。

また、SENDEX2014 (Senior & People with disabilities Expo 2014) は、2014年8月28日(木)～30日(土)に、今年と同じく韓国・京畿道にあるKintex (Korea International Exhibition Center)⁴⁾にて開催される。

特に、i-CREATE! 2014は、複数のアジアのリハビリテーション工学と支援技術関係者が集まる観点から、アジアのリハビリテーション工学と支援技術の今を知るには良い会議だと筆者は感じた。

また、未来を担うリハビリテーション工学と支援技術に関わる学びをする学生の皆様にとっては、学生時代からグローバルな視点や同じ学びを志す同世代のアジアの学生と知り合え、刺激を受ける「Students Design Challenge」への参加は有益だと思われる。

もし機会があるならば、協会の皆様、工学的支援技術を学ぶ学生の皆様、i-CREATE! 2014、SENDEX2014とも、参加あるいは見学していただき、アジアの情報を得るとともに、日本の情報を発信していただきたい。

5. 参考文献

- 1) SENDEX2013 パンフレット
- 2) 内閣府：第7回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査・日・韓比較
<http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h22/kiso/zentai/pdf/3-12-2-1.pdf>
 (アクセス日時：2013年11月30日)
- 3) i-CREATE! 2014 (8th international Convention on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology)
<http://www.icreateasia.org/>
 (アクセス日時：2013年11月30日)
- 4) SENDEX2014 (Senior & People with disabilities Expo 2014)
<http://www.sendex.co.kr/main/main.php>
 (アクセス日時：2013年11月30日)